

天からのジャッジ

新型コロナウイルスで感じていること。

それは命をかけても惜しくない仕事をしているのか？

という天からのジャッジ。

世の中はなぜその仕事をしているのか？
またなぜ生まれてきたのか？

という質問に答えられない実態があるように思います。

というこの私も
以前はなぜ仕事をしているのか？
またなぜ生まれてきたのか？
ということの答えがわからないでいました。

喘息で入院を3度くりかえし
仕事先では安月給なのに上司から嫌味やエゴを受け
いったい何をしているのだろうと自問自答していました。

その時いつも心の声がこう僕に言うのです
「本当にこのままでいいのか？」ってね。

その心の声を最初は
見て無振りをするかのように
聞こえているのに聞こえていないふりをしていました。

しかし
この心の声にしっかりと耳を傾けてみよう
と試してみたのです。

最初は尖った感じで
人との衝突も多かったのですが
次第に「胡麻」への道が切り開かれていきました。

そして胡麻を食べだしてから
喘息が治り、人間関係もますます良くなっていくのです。

そして

「ごまで世界平和」をかかげて独立し
その天の声も無くなっていったのです。

しかし起業してみたものの
5年間赤字経営で大変でした。

もうこれ以上耐え切れないところまで行った時です。
再度心の声が聞こえたのです。

「本当にこのままでいいのか？」って。

僕はあきらめられずに
その自分が導き出した「ごまで世界平和」の夢を
最強までに信じることにしたのです。

その後
皆様が知っているとおり
たくさんの先輩や仲間、家族に助けられ
現在のように胡麻といえば「ふかほり」というブランドとファンが広がりました。

更には国際協力機構 Jica と組んでのパラグアイ共和国での活動が
外務省の日本の国際協力に掲載されるまでになったのです。

だからきっと今
世の中で必要なのは

自分の心声を素直に聴き
人生を最強にまで信じることではないか？と思っています。

それはひとことで
「天からのジャッジにより自覚を持つこと」だと思うのです。

深堀勝謙 拝